

Microsoft Teams を核とした実習授業の実践とオンライン SA の導入事例

宇津川 喬子[†]

[†] 立正大学 地球環境科学部

キーワード：Microsoft Teams, オンライン授業, スチューデント・アシスタント, 実習科目

1 はじめに

立正大学地球環境科学部地理学科 1 年生対象の実習科目「情報処理の基礎」について、2020 年度 1 期（前期）に実施したオンライン授業および同科目に導入したオンライン SA（スチューデント・アシスタント、以下、SA）の導入体制を、[1]に基づいて紹介する。

2 Office365 を用いた実習授業

当該科目を含め、実習科目の成績対象である“課題”の提出とフィードバックがスムーズに行え、かつビデオ電話機能も同時使用が可能な点から、Office365 の Microsoft Teams（以下、Teams）を核としてオンライン授業の体制を整えた。

「クラス」のチームを用いて、一般的な基本機能（授業回毎のチャンネルの作成、投稿によるアナウンス等）を利用しつつ、ルーブリックを組み込んだ「課題」機能や Microsoft Forms（以下、Forms）や Microsoft Stream との紐づけを活用した。後述のオンライン SA 体制を含めた“質問の場の提供”を含め、Teams のみでも授業内容の発信と共有が完結するシステムを用意することができた。

3 オンラインSAの運用事例

3.1 オンラインSAの勤務体制と管理方法

実習時間（授業時間）内に受講生からの質問に柔軟に対応するため、オンラインでの SA 体制を Teams で整えた。

出退勤時刻は Forms で提出し、授業時間中は教員と同じく常時 Teams のビデオ会議に“出席”して適宜教員の指示を受け、教員の監視下で受講生からの質問対応にあたった。受講生は、投稿機能あるいはビデオ会議に“参加”することで個別に教員または SA に質問をすることが可能となった。

3.2 導入効果

受講生に行ったアンケート結果（回答率 56%）から、オンライン SA の授業サポート体制への評価が「よかった・十分だった」と答えた学生は 81% であった。気軽に質問ができたことやオンライン下で数少ない上級生との関わりの機会を得られたことが自由回答の記述から伺える。

また、SA 全員に行ったアンケート結果から、勤務体制に大きな障害や問題点は確認されなかったが、授業環境（使用端末やソフトウェアのバージョン）の統一が極めて難しい中、アドバイスがうまくいかなかったケースでは SA に負担を強いてしまった。また、授業初回に顔合わせの機会があることで、その後のコミュニケーションがより容易となる可能性が示唆された。

4 おわりに

Teams の活用は、授業に限らず、本学科では学科内行事等にも応用された（例えば、卒業研究発表大会）。対面授業が再開した 2021 年度も、授業連絡、インターネットサイトを含めた資料の配布、課題のやりとりを中心に Teams を多用している。Teams を用いた今回のようなオンライン SA 体制が、今後も広く利活用されることを望む。

一方、チャットを含めた Teams に頼った教員—学生間のコミュニケーションの継続（習慣）が、学生が身につけるべきメールスキルおよびモラルの低下へ繋がるのが危惧される。

参考文献

[1] 宇津川喬子・横山貴史・金 延景, Office365 を用いた実習授業の実践とオンライン SA の導入—「情報処理の基礎」の事例—, 地球環境研究, 23, 105-114, 2021 年